

17T

子宮頸がんワクチン接種

副作用1968件、調査へ

厚労省

ワクチンの安全性を
検討する厚生労働省の
専門部会は十六日、四
月に定期接種化したば
かりの子宮頸がんワク
チンで、以前から接種
後に原因不明の痛みや

けいれんなど健康被害
の報告が多数あること
を踏まえ、接種と症状
に関連があるかどうか
を調査すべきだとする
意見をまとめた。厚労
省は詳しい調査を開始

すると決めた。
――関連①面
専門部会は、ただ重
大な健康被害の発生頻
度が他のワクチンと比
べて特別に高いとは言
えないとして、現時点

で定期接種の中止は必
要ないとした。
厚労省は部会で、子
宮頸がんワクチンの接
種後に副作用が生じた
との報告が、二〇〇九
年十二月の販売開始か
ら今年三月末までで千
九百六十八件に上った
と報告した。

で、接種百万回当たり
約一二・三件となっ
た。インフルエンザワ
クチン(約〇・九件)
や不活化ポリオワクチ
ン(約二・一件)より
高いが、日本脳炎ワク
チン(約二六・〇件)
よりは低かった。
また子宮頸がんワク
チンで重い健康被害が
生じていると訴える民

間団体が集めた症例二
十四件が示された。
うち十七件は医療機
関や製薬企業からの報
告に含まれていない。
部会メンバーの医師
らからは、接種に伴い
慢性的な痛みが続く
「複合性局所疼痛症候
群(CRPS)」などが
発症している可能性

を調べる必要があると
の意見が出た。
子宮頸がんワクチン
は原因となるヒトパピ
ローマウイルス(HP
V)の二つの型の感染
予防に効果があり、四
月からの定期接種では
小学六年から高校一年
相当の女子が対象とな
っている。